

# 大学間連携事業における遠隔非同期型 eラーニングの質保証の取り組み

高橋暁子

徳島大学

## 大学間連携 eラーニング事業

近年、複数の大学が連携したさまざまな eラーニング事業が実施されている。2013 年度には、文部科学省「国立大学改革強化推進補助金」に「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」が採択された。本事業は、四国の 5 つの国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）がそれぞれの資源を効果的・効率的に活用する観点から、(1) AO 入試、(2) 大学教育、(3) 産学連携の 3 部門について、大学の枠を超えて共同実施し、一層の機能強化を図ることを目的とするものである。本稿では、3 部門のうち、(2) 大学教育の共同実施（通称、知プラ e）事業について述べる。

知プラ e では、遠隔非同期型 eラーニングを用いて、それぞれの大学が得意とする教育・研究分野の授業をコンテンツ化し、5 大学の学生に提供する。つまり、知プラ e は MOOC<sup>☆1</sup>ではなく、SPOC<sup>☆2</sup>に位置づけられる。5 大学の学生にとっては、科目選択の幅が広がるとともに、各大学の時間割に依存せず、開講期間中ならいつでも履修が可能となるというメリットがある。開講科目および履修者は年々増え、2017 年度は 5 大学合計 38 科目の教養科目が開講され、履修者は 4,569 人となった。

知プラ e における大学教育の実施にあたり、特に注力してきたのは「共同教育実施モデル」と「教育の

質保証の枠組み」の構築である。

「共同教育実施モデル」とは、時間割、履修登録期間、成績評価方法など、教育システムが異なる大学間で、同一の講義科目を開講・運用する枠組みである。このモデルは既存の「単位互換」ではなく、5 大学で同一科目を開講し、科目担当教員を非常勤講師として一括任用するという仕組みである（図-1）。これにより、学生は所属大学で通常開講される授業とほぼ同じ方法・日程で、他大学が提供している科目の履修登録や成績確認ができるようになった。

一方で、対面授業と同等の質を担保しつつ、5 大学間でばらつきのない eラーニングコンテンツを開発することは大きな課題であった。連携大学は同じ国立大学とはいえ、eラーニングコンテンツの開発支援体制が異なっていたり、担当教員の eラーニング経験に差があったりして、本事業の関係者が“どのようなコンテンツならば質が良いといえるのか”について、共通理解を持つことが困難であったため

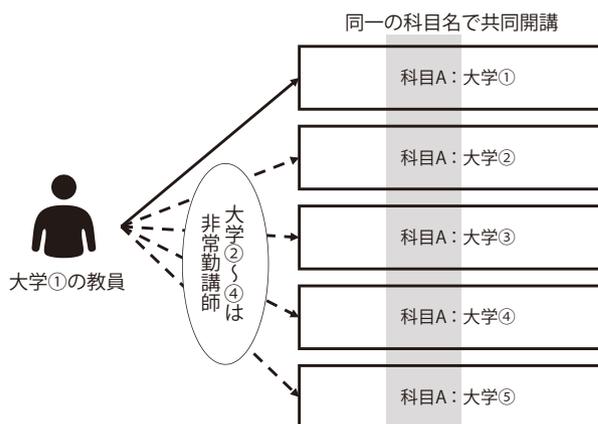


図-1 四国 5 大学型共同教育実施モデル

☆1 Massive Open Online Courses の略で、誰でも受講できる大規模オンライン講義のこと。

☆2 Small Private Online Courses の略で、小規模な非公開オンライン講義のこと。

である。そこで、「教育の質保証の枠組み」を構築することを旨とし、さまざまなガイドラインの開発や授業アンケート調査といった活動を実施してきた。

次章では、開発したガイドラインの1つである、「オンライン授業設計ガイドライン」を用いた質保証の取り組みについて詳しく紹介する。

## オンライン授業設計ガイドラインを用いた質保証

### □ オンライン授業設計ガイドライン

国外であれば、欧州遠隔教育大学連盟が開発した「E-xcellence」<sup>1)</sup> など、組織の枠を超えたeラーニングの質保証に関するフレームワークがいくつか提案されている。しかし、国内では一機関のガイドライン等はあるものの、複数の組織間で共通で用いるeラーニングの質保証に関するフレームワークは見当たらなかった。そこで、E-xcellenceなどの先行事例を参考に、遠隔非同期型eラーニングの質保証に関する各種ガイドラインを開発し、5大学の実情に合うように改訂を重ねてきた。その1つが「オンライン授業設計ガイドライン」(以降、単にガイドラインと呼ぶ)である(付録A)。これにより本事業の関係者間で目指すべきオンライン授業像の共通認識が図られた。

### □ オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート

ガイドラインを開発しただけでは、絵に描いた餅になりかねない。質保証の実質化のためには、ガイドラインの適用状況をチェックし、改善へつなげる仕組みを構築することが重要であった。そこで連携大学が自大学開発科目の自己点検を実施することとし、自己点検に用いるツールとして「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(以下、確認シート)」を開発した。

確認シートは、ガイドラインの達成状況を確認するエクセルファイルである。

確認シートを用いた自己点検は、当該授業の担当教員もしくはプロジェクト教職員が行うものとした。

点検実施者は、シラバスおよびeラーニングコースを見ながら、4枚の入力シートの各項目に入力する。入力項目の多くは選択式となっているが、コンテンツを転記する欄も設けることでエビデンスを残す工夫をしている。最終的に結果確認シートに、ガイドラインの「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」に対応した全17項目の達成状況が表示される(図-2)。

入力されたエクセルファイルは、質保証のエビデンスとするためにプロジェクト代表校にて一括で保管することを取り決めた。

### □ 運用

確認シートを用いた自己点検は、2017年度に開講された全38科目を対象として実施された。本稿執筆時点では、全科目の達成状況を取りまとめている途中であるが、筆者の所属大学においては開講7科目のうち、ガイドラインに100%準拠していたのは4科目であった。ガイドライン制定後に開発された科目は、ほぼすべての項目を満たしており、質が担保されていることを確認できた。

## 今後の課題と展望

今後は知プラeの全開講科目のガイドライン達成状況を確認し、未達成項目について改善を行うことで、質保証に向けた取り組みを強化していきたい。また、今後の新規開発科目に関しては、設計段階か

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による高等教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン(案)準拠確認シート

| 「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」のチェック項目                           |  | 確認結果 |
|---|--|------|
| コース全体   |  |      |
| (1) 1科目ごとに1コースを用いる。                                       |  | 達成   |
| (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。                   |  | 達成   |
| (3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。[viii]   |  | 達成   |
| (4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。 |  | 達成   |
| (5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間(締切日時)を設定する。        |  | 達成   |
| (6) コース導入部分にはシラバスを示す。                                     |  | 達成   |

図-2 確認結果シートの入力例



ら確認シートを用いてガイドラインの達成を目指すことで、開講初年度から一定の質を担保したオンライン授業が提供できるだろう。

本稿で紹介したガイドラインの全文および確認シートは、知プラeのWebサイト<sup>2)</sup>で公開している。知プラeは2017年度末をもっていったん終了を迎えるが、本プロジェクトの成果物をたたき台として、国内においてもオンライン教育の質保証について議論が深まることを願う。

#### 参考文献

- 1) EADTU (2016), <http://e-xcellencelabel.eadtu.eu/tools/manual> (参照 2018.3.15)
- 2) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 (2018), <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp> (参照 2018.3.15)

(2018年3月28日受付)

高橋暁子 (正会員) atakahashi@tokushima-u.ac.jp

徳島大学総合教育センター ICT 活用教育部門特任准教授。博士 (学術) (熊本大学, 2012年)。日本教育工学会 SIG-07 インストラクショナルデザイン幹事, 教育システム情報学会編集委員会委員など。

## ● 付録 A : オンライン授業設計ガイドライン

(2017年1月31日第九稿から抜粋)

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業設計ガイドライン

### 1. eラーニングコンテンツの範囲

(1) このガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ(以下、「コンテンツ」という。)」とは、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。

### 2. eラーニングコンテンツの定義

- (1) 単独で利用可能な最小単位の教材を「オブジェクト」という。
- (2) 複数オブジェクトを組み合わせで構成されたコンテンツ群を「モジュール」という。1モジュールは授業1回分に相当する。
- (3) 複数のモジュール、つまり授業数回分をまとめた単位を「ブロック」という。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。
- (4) 複数のモジュールまたは複数のブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の基準に相当する学修活動を満たすモジュール (またはブ

ロック)群のことである。

### 3. 成績判定

- (1) モジュールに含まれる学修活動は出席に相当する。全モジュール内の学修活動を一定以上実施・提出することで学業成績の判定要件を満たす。
- (2) 成績はモジュールに含まれる学修活動とそれ以外の学修成果(試験・レポート・作品課題など)の組み合わせで評価する。評価対象となる試験・レポート・作品課題などはそれぞれにおいて6割以上の点数を取得することで単位取得の最低条件とする。これによってすべての学修成果物で一定以上の成果を収めていることを確認する。

### 4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

- (1) 1科目ごとに1コースを用いる。
- (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。
- (3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。
- (4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。
- (5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学

- 修期間を設けるか、学修期間（締切日時）を設定する。
- (6) コース導入部分にはシラバスを示す。
- (7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。
- イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先
  - ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段（eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど）
  - ハ) 科目担当者による授業紹介（短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの）
- ニ) 授業概要（タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法）
- ホ) スケジュール（コンテンツの公開日時および締切日時、推奨学修期間）
- ヘ) 単位取得の条件（成績評価対象（複数）、各成績評価対象の評価基準（成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数）、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨）
- (8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ（小テスト、小レポートなど）を含める。
- (9) 学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール（授業1回分）には以下の内容を含める。
- イ) 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など
  - ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など
  - ハ) 学修活動コンテンツの要件：合格条件（小テスト・小レポートの合格点など）、フィードバック方法（自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の掲示、解説など）、フィードバック実施期間の設定など
- (10) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを示す。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。
- イ) 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）
  - ロ) 授業内容についていけない学修者を対象とする復習の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など）
  - ハ) 発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

